

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 29 日現在

機関番号：32615

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20401019

研究課題名（和文） リベラルアーツ教育における文学教育の歴史と可能性：国際的比較研究

研究課題名（英文） History and Possibility of Literature Education in Liberal Arts Education: An International Comparison

研究代表者

大西 直樹 (ONISHI NAOKI)

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号：80152198

研究成果の概要（和文）：文学研究と文学教育のあり方を、ことに教養学部の領域で扱うことの問題点と可能性とを国際比較し、今後の展望を探る目的で、イギリス、アメリカ、フランスの主要な大学における経験豊かな文学担当の研究者と直接に長時間の面談による情報集種をおこない、それを日本での現状にどのように反映できるか検討した。

研究成果の概要（英文）：

In order to review and reconsider the significance and meanings of Literary studies and education in liberal arts education system, in particular, we have conducted researches based upon personal interviews with various scholars and educators currently teaching literature courses in major universities in England, America and France. The information and advice thus collected were internationally compared and considered with view to reform teaching practice in Japan from now on.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2009年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2010年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2011年度	2,200,000	660,000	2,860,000
年度			
総計	12,800,000	3,840,000	16,640,000

研究分野：西洋古典文学、イギリス、アメリカ文学、フランス文学、日本文学

科研費の分科・細目：人文学 A・各国文学・文学論

キーワード：リベラルアーツ教育、文学研究、文学教育、一般教養、古典、文学、創作活動、文学理論

## 1. 研究開始当初の背景

近年、大学に於ける人文科学、ことに哲学や文学など就職に直結しない学問分野の退潮傾向は否めず、多くの大学で文学部の衰退と専攻学生数の減少が問題となってきた。文学の分野ではさまざまな学会にもこの傾向は及び、こうした傾向をただ看過してはいられない現状である。国際基督教大学では教育改革の一貫として、メジャー制度への

転換がおこなわれたが、それにともない従来、国別の文学専攻がなされていたが、それをまとめて、文学研究メジャーとして改組された。この時期に、国別の文学研究と教育を乗り越えて、広く文学全体について、大学で、ことに本学のような教養学部でいかに教育と研究がなされるべきか、共通の理解を持つべきだという認識が担当教員の間にはひろまり、共同研究にたずさわろうという合意が形成さ

れた。

## 2. 研究の目的

文学研究と教育が置かれている厳しい現状に鑑み、何らかの打開策を見出し、同時に国別に縦割りになっている領域を広やかに見つめ直し、共同して今後の歩みをすすめるきっかけを求めらる。

## 3. 研究の方法

文学教育と研究については、統計的な資料収集は始めから考えず、各国の大学の教員に直接長時間のインタビューをおこない、日本での現状を十分に説明したあとで、それぞれの経験にもとづく方策を収集した。インタビューにかかわった国は各国の大学教員の数は、合計で延べ40名を超え、それぞれ経験知に則った見識高い意見を収集することができた。オックスフォード大学、ハーヴァード大学、パリ大学、アーマスト大学、ブリストル大学、ボストン大学、カリフォルニア大学、カラマズー大学などの教授たちとの直接の情報交換は刺激に満ちたものだったが、そのうち、数名は国際基督教大学での公開講演会に参加する形での意見交換をおこない、この研究課題に直接かかわる範囲をこえた、広い聴衆とも問題を共有出来たことは意義ぶかった。また、逆に、共同研究者の四名や多大学に所属する共同研究者二名は海外で公演をおこない、現地の研究者との間で、この研究課題について理解をふかめ、問題を共有した。

## 4. 研究成果

最終年には、このように海外から集積された知見をもとに、国際基督教大学の卒業生で現在活躍中の作家、奥泉光、高村薫両氏を招いて、他の大学に所属する共同研究者とともにシンポジウムを開催し、公開して多くの聴衆とともにこれまでの研究成果を話し合った。就職のための資格教育ばかりが重要視される昨今の大学教育において、古典作品を中心とする教養教育は、ただちに就職との関連はあるようには見えなくとも、人間として生きるうえで、必要不可欠の知識であり、それは大学教育の場以外では学べないことが多い。古典作品は一見近づきにくく、現代の学生の関心から遠のいているように見えるが、教える側が受け手の立場にたって様々な工夫をする必要性に迫られている。その工夫の要点はいかに文学を実践するかという側面であり、教育の場面にその要素をいかに多く取り込めるかである。たとえば、詩を始めとする文学作品の朗読、演技のワークショップ、クリエイティブ・ライティング、映画作品との比較、などを教育の場面に活発にとり入れ、単にテキスト分析だけに終始することなく、

生きた作品として体感できる環境を創り上げることの重要性が浮き出た結果となった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 16 件)

1. Onishi, Naoki: “Emily Dickinson Knew How to Suffer,” *Bulletin, Emily Dickinson International Society*, 査読有, 4-5, 2012

2. Simons, Christopher: “A Letter from Tokyo”, *PN Review*, Issue 200, Volume 37, Number 6, 査読無, July-August 2011, 8-9

3. Simons, Christopher and Burrett, Tina: ‘Nuclear Debate Intensifies Post-Fukushima’ .*New Internationalist*, Issue 442, 査読無, 1 May 2011, 12

4. Iwakiri, Shoichiro: “Autoportrait du poème en prose.” *L’ Année Baudelaire* 2011 : 13/14 : 査読有, 181-193

5. 佐野好則: 『イーリアス』第11巻におけるネストールの物語” 西洋古典学研究 59号. 査読有, 1-10 (2011)

6. 佐野好則: 『ポリテイア』第4巻における正義の定義の背景” 理想 686号. 査読無, 14-23 (2011)

7. 大西直樹: 「ICUにおけるリベラルアーツ教育について」『総研ジャーナル』96号. 査読無, 12-31 (2010)

8. 本山哲人: “ ‘Living Art’ Lost : The Arden<sup>3</sup> Love’s Labour’s Lost and Shakespeare in Higher Education” 人文論集(早稲田大学法学会) 第48号. 査読無, 164-132 (2010)

9. 大西直樹: 「キャンパスの中心にある対話の舞台」 『大学時報』 No. 335. 査読無, 120-121 (2010),

10. 岩切正一郎: 「リンダ・ロバス」 「ウィリアム・クリフ」 びーぐる(澤標社) 3号. 査読無, 23-26 (2009)

11. Ikoma, Natsumi: “The Proustian Mystery of the Black Swan in Angela

Carter's : The Infernal Desire Machines of Doctor Hoffman" Contemporary Women's Writing 2 巻 2 号. 査読有, 155-173 (2009)

12. Onishi, Naoki: "Puritan Historians and Historiographies" Oxford Handbook of Early American Literature. 査読無, 93-113 (2008)

13. Iwakiri, Shoichiro: "Le Notable poetique d'une voix" Baudelaire, et les formes poetiques 83. 査読有, 53-64 (2008)

[学会発表] (計 13 件)

1. Simons, Christopher "Forced Perspectives: Wordsworth's London, 1791 - 1804". Wordsworth Winter School, Grasmere, England, February 23, 2012.

2. Sano, Yoshinori: "The Ode on Man in Sophocles' Antigone, Comparison with texts on the Development of Civilization", Research Seminar Department of Classics and Ancient History, University of Bristol, England, 2012年2月14日.

3. Simons, Christopher " 'Coward Conscience' : Shakespeare's Dramatic Values". Harvard Club of Japan, Roppongi Hills Club, 5 October 2011.

4. Simons, Christopher " 'Strange Familiars' : Paul Muldoon's *Madoc: A Mystery* and Robert Southey's *Madoc*". Wordsworth Summer Conference, Grasmere, England, 2 August 2011.

5. Simons, Christopher: " 'Not waving but drowning' : Japanese students' perceptions of suicide and melancholy in English literature". Poetry and Melancholia Conference, University of Sterling, England, 8 July 2011.

6. Simons, Christopher: "Public and Private Trauma: the Poetry of Emily Dickinson". Emily Dickinson Society of Japan, Annual Meeting, 国際基督教大学, 18 June 2011.

7. 岩切正一郎: 「心の翻訳 言葉の翻訳」 (白百合女子大学大学院オムニバス授業シリ

ーズ「異文化の中の日本文学」), 白百合女子大学, 2011年6月6日

8. Ikoma, Natsumi: "Separate Ladder: Educated Women's Predicaments in Japan," Asian Women and Education: Asian, European, and Other Perspectives, Hanoi, Vietnam, 2011/06/03

9. 佐野好則: 「『イーリアス』第11巻におけるネストールの物語」 日本西洋古典学会, 山口大学, 2010/06/06

10. Ikoma Natsumi: "Cultures at Intersection" Harvard Yenching Institute Literature Symposium. (2010/05/01). Harvard University

11. 大西直樹: 「戦後日本のキリスト教とリベラルアーツ」キリスト教史学会. (2009/10/21). 国際基督教大学

12. 大西直樹: 「エミリー・ディキンソンの語法」日本アメリカ学会年次大会. (2009/10/10). 秋田大学

13. 大西直樹: 「ソローの西へ向かう旅」日本ソロー学会. (2008/10/10). 福岡大学

[図書] (計 9 件)

1. 大西直樹 翻訳『空よりも広く エミリー・ディキンソンの詩に癒やされた人々』彩流社、262頁、2011年

2. ツベタナ・クリステワ 『心づくしの日本語: 和歌でよむ古代の思想』ちくま新書 9 2 9、256頁、2011

3. 大西直樹: 『エミリー・ディキンソンの詩の世界(エミリー・ディキンソンの語法)』国文社. 408頁(2011)

4. ツベタナ・クリステワ、岩切正一郎、佐野好則(共著): 『人間に固有なものとは何か』創文社. 290頁(2011)

5. Simons, Christopher: *No Distinguishing Features*, Worldwolf press, 32 pages, September 2011

6. Ikoma, Natsumi(共著): *Asian Women and Education---Asian, European and Other Perspectives*, Ed. ran Thi Phuong Hoa Nha Xuat Ban u Dien Bach Khoa, in press, 2011

7. 大西直樹: 『世界を新たに---フランクリンとジェファソン』 彩流社. 209 頁 (2010)

8. 岩切正一郎: 全翻訳カミュ著『カリギュラ』” 早川出版. 180 頁 (2009)

9. Ikoma, Natsumi (共著): *The Horrid Looking Glass: Reflections on Monstrosity*, Ed., Inter-Disciplinary Press 139-150, 2011

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

大西 直樹 (ONISHI NAOKI)  
国際基督教大学・教養学部・教授  
研究者番号: 80152198

### (2) 研究分担者

岩切 正一郎 (IWAKIRI SHOICHIRO)  
国際基督教大学・教養学部・教授  
研究者番号: 60262060

生駒 夏美 (IKOMA NATSUMI)  
国際基督教大学・教養学部・上級准教授  
研究者番号: 60365525

佐野 好則 (SANO YOSHINORI)  
国際基督教大学・教養学部・上級准教授  
研究者番号: 50295458

クリステワ ツベタナ (KRISTEVA TZVETANA)  
国際基督教大学・教養学部・教授  
研究者番号: 80365519

小玉 クリスティーヌ (KODAMA CHRISISTINE)  
国際基督教大学・教養学部・上級准教授  
研究者番号: 10129752

サイモンズ クリストファー (SIMONS CHRISTOPHER)  
国際基督教大学・教養学部・准教授  
研究者番号: 80527143

松田 隆美 (MATSUDA TAKAMI)  
慶應義塾大学・文学部・教授  
研究者番号: 50190476

荒井 直 (ARAI NAOSHI)  
山梨英和大学・人間文化学部・教授  
研究者番号: 60222717

本山 哲人 (MOTOYAMA TETSUHIITO)  
早稲田大学・法学学術院・准教授  
研究者番号: 20386527

### (3) 連携研究者

なし